

2021 年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 公益財団法人吹田市国際交流協会

代表者・役職名 氏名 近藤 佐知彦

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

多文化共生社会におけるこどもの命を守るための防災事業

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1991年3月に市民主体の国際交流活動を促進する団体として財団法人吹田市国際交流協会が設立された。その後、吹田市との連携を図りながら、国際交流活動のみならず地域に根ざした国際相互理解や国際化推進及び多様性と人権を尊重し誰もが安心して暮らせる地域づくりに寄与することを目的に、2013年4月に公益財団法人吹田市国際交流協会に移行した。2021年度末の会員数は、個人法人合わせて574名である。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

吹田市の在住外国籍人数は、この5年間で30%増加している。地域の特徴として若い子育て世代が多い。在住外国人の日本における出産・子育て環境は、言葉・文化・人間関係・行政制度など複雑で不安や困りごとが多い。さらに、近年は自然災害も多発している。外国人市民の中には防災に関する予備知識が少なく、避難所や避難所運営について知らない人も多く、子どもがいる場合には災害時のリスクはさらに高くなる。日常から地域の人たちとつながりを作り、いざという時に子どもや自分を守り、被災時には互いに支え合うことのできるような地域づくりを目指す。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ①協会が運営する外国人パパ・ママの子育てサークル「こあらくらぶ」を地域の他の子育てサークル等とつなげる。子育て中の親子に向けた防災セミナーを実施し、互いに課題を発見・共有すること。(防災食、防災離乳食の試食、赤ちゃんのための防災グッズの体験、避難所の運営を知ること、避難所における親子の居場所づくりの事例を知ること)
- ②防災ワークショップを通して、自治会や行政職員とも連携し、防災への意識を高める。
- ③上記の内容を動画とし、英語、中国語、韓国朝鮮語、ベトナム語、インドネシア語、ロシア語、ウクライナ語に翻訳し、協会のホームページから配信し、広く情報共有をはかる。
- ④これからのために、災害時にコミュニティのリーダーとなってくれるキーパーソンの発見と育成につなげること

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果

親子でまなぶ健康と防災、親子向け防災教室、みんなで考える防災ワークショップ、防災動画作成等(参加者計59名)

成果

外国人子育てサークルの活動を中心に、ボランティアや日本人親子と一緒に小規模な防災・減災事業を複数回実施した。また、市の危機管理室や社会福祉協議会職員等が参加した結果、災害時に外国人市民が直面する課題や防災知識の違い等の理解が促進された。さらに、在住外国人が出演した防災動画を3本(防災グッズを作る、買う、市の防災備蓄倉庫視察)作成、多言語化し配信した。

効果

関連機関との連携が強まり、日常からの関係性づくりが防災事業において重要なことを認識し、今後の在住外国人を対象とした防災・減災事業の要点が明確となった。防災動画の作成・配信をきっかけに、今後防災リーダーとなりうる人材発見に繋がりを、広く情報を発信する事が可能となった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回の参加者アンケートやスタッフの経験をもとに、防災に関心のない人に参加してもらうための実施方法の工夫と継続性が重要であることが明確になった。大きな防災イベントの開催より、定例事業（日本語学習、子育て・子ども事業等）内で、それぞれの対象者に合わせて小規模なイベントを継続して実施することを事業計画としていく必要がある。また、今回コロナ禍で積極的に実施できなかった地域コミュニティや他団体とのつながり作りは、すぐにできるものではなく、防災事業の一環であるという協会内の共有認識の下、積極的に取り組むべき課題である。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。





ママと子どもを守るための

親子でまなぶ健康と防災

Family Health and Disaster prevention

11月17日 (すいようび)

1

ママの身体と心のケア

Mind and body care for Mothers

10:00~11:00

医師 高岡 幸 Doctor Takaoka Sachi
済生会中津病院 Saiseikai Nakatsu Hospital

▼こんな話が聞けます Contents▼

- When should you go to ObGy?/
どんなときに産婦人科に行くか
- What kind of examinations?/産婦人科での診察
- What is the good way to communicate in ObGy?/
医師との良好なコミュニケーションのとり方
- What cares can you get in Suita city?/
地域で受けられるケア(妊娠中、出産後)

2

こどもの命を守る防災教室

Disaster prevention for Children

11:00~12:00

※真如苑Shinjoプロジェクト助成事業

防災士 Disaster prevention officer

▼こんな話が聞けます Contents▼

- “Disaster prevention mom bag” useful for disasters/
災害の時に役立つ「防災ママバッグ」
- When an earthquake occurs,
How to protect children and moms (position)/
地震時 こどもとママを守る姿勢(ポジション)

場所:ラコルタ(千里ニュータウンプラザ6F)

対象:小さい子どもと親、妊娠中の方

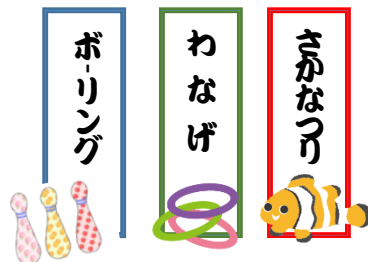
参加費:無料

定員:20名ぐらい

申込み:メールまたは Google フォームまで



えんにち
三二線日もあります



メール(名前、国籍、電話番号、お子さんの名前、年齢、参加希望時間(①か②))を書いてください。



公益財団法人 吹田市国際交流協会 (SIFA)

TEL 06-6835-1192 (月~金 9:00~17:30)

E-mail info@suita-sifa.org HP https://suita-sifa.org

